

慶長十四年己酉半年程居城、慶長同鑑曰、

安芸守蒙御勘気云々、
(石川清兼)

一 或書曰、康道病死之時、実子安芸守を以欲令

継家而、雖伺 台旨、不許之、依而以忠総令継家

云々、

一 石川主殿頭源忠総 始宗十郎或総輔

忠従、綱輔トモ 領五万石

実大久保相模守藤原忠隣之二男、石川家成之外孫也、

慶長十四年己酉十二月五日、賜当城五万石、同十八年

八幡曲輪惣堀構之、慶長十九年甲寅十一月三日、

台徳院殿秀忠公大垣御宿城、大坂御陣之時
(徳川)

高輪筋 竹嶋町 南寺内 惣堀出来と云々

元和二年丙辰或三年、加賜一万石、移豊後国肥田城、
(肥)

寛永十年、移紀州佐倉城、元和元年四月十四日、

東照大神君尾州名古屋出御、大垣御宿城、大坂夏
(徳川家康)

陣之時、